

RKK TV INFORMATION

熊本の生活情報 & ニュースは
RKKにおまかせ下さい!

RKK 3ch

WELCOME!

月～金曜 ごご3時

MEG



青谷
倫太郎



栗原めぐみ
(気象予報士)

佐々木慎介

江上浩子

柿木綾乃

RKK NEWS
Just

月～金曜 ごご
6時15分



木村和也

倉田もえ

週刊山崎
WEEKLY YAMASAKI-KUN

水曜
よる7時

RKK
BOYS & GIRLS
キャンペーン

RKKは熊本のがんばる
少年少女たちを応援しています!

キャンペーンソング「あしたへ」

吹奏楽スコア&パート譜
配信中♪

特設サイト <http://rkk.jp/bg/>

illustrated by Eguchi Hisashi © 2013

RKK 熊本放送
<http://rkk.jp>

熊本県民第九の会 第32回
第57回 熊本県芸術文化祭参加

ベートーヴェン

第九

第32回

平成27年12月6日(日)午後6時15分
熊本県立劇場コンサートホール

主催/熊本県民第九の会・熊本県文化協会
共催/(公財)熊本県立劇場

後援/NHK熊本放送局・熊本日日新聞社・RKK・エフエム熊本・FM79.1



熊本県知事

蒲島郁夫

第32回ベートーヴェン「第九」演奏会の開催を、心からお慶び申し上げます。

熊本の年末の風物詩であるこの演奏会は、県民参加の演奏会として、多くの方に親しまれています。これも熊本県民第九の会の皆様の御努力の賜物であり、深く敬意を表します。

世界中で愛され続けているベートーヴェンの「第九交響曲」は、人間の尊厳と人類愛を世界に向けて呼びかけた作品と言われています。熊本県民第九の会は、この思いに応えるように、県内全域から集われた250人により結成された合唱団です。本日は、指揮者の小森康弘さんのもと、第九の会と第一線で活躍されている4人のソリストの方々、そして熊本交響楽団が一体となった一年の締めくくりにあふさわしい演奏となっています。ご来場の皆様には、感動的なステージを、たっぷり御堪能いただけるものと思います。

県では「誇りを持ち、夢の実現に挑戦するくまもと」の実現に向け、熊本の優れた文化を守り、磨き上げ、次世代へと継承することを目指して、文化の振興に取り組んでいます。

熊本県民第九の会の皆様におかれましては、今後とも、県民一体となって創り上げてこられた「第九」演奏会を継続され、本県の文化振興にお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

最後に、本日の演奏会の御盛会と、御参集の皆様の御活躍を祈念して、お祝いの言葉といたします。



熊本県立劇場理事長

世良喜久子

県民の大きな楽しみの一つである年末恒例のベートーヴェン「第九」が、今年も開催されますことを心よりお喜び申し上げます。

熊本県民第九の会による「第九」は、県立劇場開館10周年と30周年の記念コンサートに出演いただくため休止となった2回を除き毎年開催されており、今年で32回目を迎えました。

その間、合唱団や熊本交響楽団の方々、そして裏で運営を支えてこられた実行委員会のみなさまの熱意と努力により、長きにわたって県民のみなさまに感動と喜びを与えてくださったことに対し、深く敬意を表します。

熊本の「第九」で今回初めて指揮をなさる小森康弘さんは、東京芸術大学を卒業後ヨーロッパで研鑽を積み、国内外の多くのオーケストラを指揮して来られた実力派です。

またソリストには、熊本を拠点に幅広く活躍なさっているソプラノの福嶋由記さんとアルトの兼武尚美さん、そしてテノールは大分出身の土崎譲さん、バリトンは熊本出身の水野洋助さんという4人が迎えられました。いずれも、熊本県民第九の会による「第九」への出演は初めての方たちですが、若々しい歌声が聴けるものと楽しみにしております。

夏から練習を重ねてこられた合唱団のみなさまを、オーケストラや指揮者、ソリストのみなさまが支えてくださり、素晴らしい歓喜のハーモニーがホールいっぱいに響きわたることと思います。

この至福の時間をみなさまと一緒に過ごせることに感謝申し上げますとともに、熊本県民第九の会のますますのご発展を祈念いたします。



熊本県文化協会会長

吉丸良治

熊本の師走の風物詩、ベートーヴェン「第九」の演奏会の開催を心からお慶び申し上げます。

熊本県立劇場の柿落としとして始まったこの演奏会は早くも32回目を迎えています。クリスマスシーズンを飾る県民参加の音楽祭として多くの皆さんに親しまれてきました。

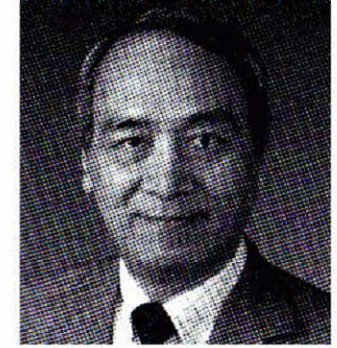
今回は海外国内を問わず、オーケストラを指揮するなど大活躍中の小森康弘先生をお迎えできました。ソリストは、ソプラノに福嶋由記さん、アルトは兼武尚美さん、テノールは土崎譲さん、そしてバリトンに水野洋助さん4人をお迎えできたのです。

熊本交響楽団の調べに乗せて、4人のソリストと熊本県民第九の会の合唱団250人が「歓喜の歌」を歌われます。客席の皆様も御一緒にいただきながら高らかに響く歌声は、会場全体が感動の渦に包まれるでしょう。

御来場の皆様方は、夢のようなひと時をたっぷりとお楽しみ下さい。

本演奏会を主催いただく「熊本県民第九の会」は、昭和57年熊本県立劇場と時を同じくして誕生されましたが、これまで色々な困難を克服し、今日まで継続してこられたのです。これは、実行委員会と合唱団、そして熊本交響楽団の情熱と連携、そして強い使命感によるものでありましょう。

「熊本県民第九の会」におかれては、観客と演奏者が一体となった、この歓びに満ち溢れる演奏会を、これからも継続していただき、県民の幸せと熊本の文化振興に御尽力いただくことを願ってやみません。



熊本県民第九の会実行委員長

神田一伸

本日は年末のお忙しい中、「熊本県民第九の会」第32回演奏会へ足をお運びいただき心より感謝申し上げます。今年は指揮者・ソリストの一新をはかりフレッシュな顔ぶれの熊本県民第九の会演奏会となりました。我々も若さあふれる演奏を届けたいと思っています。指揮者は1970年生まれの小森康弘先生です。芸大指揮科の卒業でこれまで国内外の多数のオーケストラを指揮しておられます。ソリストにはソプラノに熊本在住の福嶋由記先生、アルトも熊本在住で「ドン・カルロ」でも好演された兼武尚美先生、テノール土崎譲先生は大分出身で芸大音楽科を卒業後オペラやソリストとして活躍されています。バリトンは熊本県出身の水野洋助先生です。

一昨年より第九の会として他団体との交流や第九（歓喜のうた）の部分のアンコールなどを試みていますが、今後も継続して取り組んでゆこうと思っています。幸いにも多くの方々に助けていただき、毎回立派な第九演奏会を持つという夢を叶えることができてきました。これもひとえに第九を愛してやまない熊本県民の温かいご支援があったことと感謝しています。最後になりましたが熊本県文化協会、熊本県立劇場を始め関係各位のご協力に心より感謝申し上げます。今後とも「熊本県民第九の会」末永くご支援のほどどうか宜しくお願い申し上げます。

指 揮 小 森 康 弘

独 唱 ソプラノ 福 嶋 由 記
 アルト 兼 武 尚 美
 テノール 土 崎 讓
 バリトン 水 野 洋 助

合 唱 熊本県民第九の会合唱団
 音楽指導顧問 岩 津 整 明

合唱指揮 岩 代 和 武 ピアノ 川 辺 里 美
 河 添 富士子 隈 部 恵 美
 中 島 章 利 古 閑 恵 美
 平 和 孝 嗣 砂 泊 宇 希
 南 迪 子 林 原 ゆ り
 星 子 眞 澄

管 弦 楽 熊 本 交 響 楽 団



平成26年12月7日(日)《第31回熊本県民第九の会演奏会(指揮=新田ユリ)》



指 揮 小 森 康 弘
(こもり やすひろ・Yasuhiro Komori)

栃木県宇都宮市出身。宇都宮大学教育学部音楽科および、東京藝術大学音楽学部指揮科卒業、同大学院修了。

2004年6月、首席卒業生による芸大定期「新卒業生紹介演奏会」に出演、芸大フィルハーモニアを指揮。また2004年、05年とウィーン音楽セミナーに参加。選抜によりファイナルコンペティションに出場し第3位を受賞する。2006～07年、ウィーン国立音楽演劇大学オーケストラ指揮科に留学。その後ドイツのミュンヘンに拠点を移し、バイエルン放送交響楽団、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団等において研鑽を積んだ。

指揮を小林研一郎、佐藤功太郎、松尾葉子、田中良和、小田野宏之、クルト・マズア、ハンス=マルティン・シュナイト、ウロシュ・ラヨヴィッツ、エルヴィン・アチェルの各氏に師事。

これまでにウィーン・プロ・アルテ・オーケストラ、ウクライナ国立ルガンスク・フィルハーモニー管弦楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、群馬交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、セントラル愛知交響楽団、奈良フィルハーモニー管弦楽団、瀬戸フィルハーモニー交響楽団、九州交響楽団、N響メンバーによるアンサンブル等、国内外の多数のオーケストラを指揮するほか、邦人作曲家の作品・オペラの初演を数多く行っている。

現在、仙台ジュニアオーケストラ音楽監督。

福嶋 由記 (ふくしま ゆき)

ソプラノ



熊本音楽短期大学（現：平成音楽大学）研究生声楽ソロコース修学。

声楽を岩津整明、高橋嘉子、（故）西内玲、小林なほみ、南迪子、出口正子、現在、佐久間伸一の諸氏に師事。

熊本県新人演奏会出演。旭川音楽祭第1回中田喜直記念コンクール独唱の部金賞。寛仁親王杯全国童謡歌唱コンクールグランプリ大会にて、寛仁親王牌受賞。西日本新人演奏会にて、福岡文化協会賞など、その他多数受賞。大学在学時ニューヨークカーネギーホールでの記念演奏会でソリストをつとめる。

長崎県国際音楽祭、北原白秋生誕祭、宮城道雄没後50年記念演奏会、スペシャルオリンピックスセレモニー出演、陸上自衛隊西部方面音楽隊との共演、スクールコンサート、ラジオ出演、CM、CD録音等、ソロ活動を行う傍ら、審査委員、合唱団など後進の指導にあたる。

オペラ作品では「夕鶴」つう「魔笛」パミーナ「ヘンゼルとグレーテル」グレーテル「細川ガラシャ」ガラシャ夫人、熊本城築城400年記念オペラ「南風吹けば楠若葉」お藤、グルッポヴィーヴォ主催「フィガロの結婚」ケルビーノ、熊本シティオペラ協会主催「蝶々夫人」蝶々夫人「リゴレット」ジルダ「ドン・カルロ」エリザベッタ、熊本シティオペラ協会25周年記念公演西本智実指揮「椿姫」ヴィオレッタ、沖縄オペラ協会主催「オテロ」デズデモナなど出演。ヴェルディ、モーツァルト、フォーレ「レクイエム」モーツァルト「ベスプレ」ヴィヴァルディ「グローリア」ベートーヴェンの合唱幻想曲でソリストをつとめる。

現在：平成音楽大学講師・熊本シティオペラ協会会員・熊本オペラ芸術協会会員・熊本県文化懇話会会員・音楽教室主催

兼武 尚美 (かねたけ なおみ)

アルト



武蔵野音楽大学声楽科卒業。

第42回熊本県新人演奏会、第53回西日本新人紹介演奏会等に出演。

声楽を、春日幸雄氏、塚本邦江氏、郡愛子氏、呉忠珠氏の各氏に師事。カーティア・リッチャレリ女史、フィオレンツァ・コッソット女史、G・パスティネ教授、各氏のマスタークラスを受講、その日本人離れした声質と歌唱力に対し高い評価を受けた。

これまでに、オペラ「カルメン」（カルメン）、「フィガロの結婚」（マルチェリーナ）、「ヘンゼルとグレーテル」（魔女）、「河童譚」（おっかさん）、「魔笛」などに出演。2009年には「フィガロの結婚」を古楽オーケストラ・シンポジオンと共演、マルチェリーナ役を好演した。コンサートでは、美術館コンサート、ゆめあかりライブin高橋公園、福岡銀行本店大ホールにて、国際ソロプチミスト福岡南認証20周年記念チャリティー、イタリアグランデガラコンサートでイタリアのソプラノ歌手ティツィアーナ・ドゥカーティと共演他、佐賀県武雄市宝石箱コンサート等、数多くの演奏会に出演。ラスカーラオペラ協会公演、ヴェルディ「レクイエム」のほか、福岡にてモーツァルト「ミサプレヴィスニ長調K.194」ヴィヴァルディ「グローリア」等のソリストとしても出演。

昨年はグルッポ・ヴィーヴォ主催 山田和樹指揮 横浜シンフォニエッタ公演 交声曲「海道東征」ソリスト（アルト）として出演し、好評を博した。

今年5月には、熊本シティオペラ協会公演 オペラ「ドン・カルロ」にてエボリ公女を好演。熊本県を中心に県内外でさまざまなコンサートに出演している。

現在、熊本県立ひのくに高等支援学校教諭。グルッポ・ヴィーヴォ会員、熊本県文化懇話会会員、熊本オペラ芸術協会会員。

土崎 譲 (つちざき じょう)

テノール



東京藝術大学卒業。同大学院修士課程修了。第17回奏楽堂日本歌曲コンクール第一位、中田喜直賞受賞。第76回日本音楽コンクール入選。文化庁新進芸術家派遣員としてウィーンに留学。

朝日新聞社主催第50回芸大メサイアをはじめ、パッハからプッチーニまで様々な宗教曲、オーケストラ作品にソリストとして出演し、G.ロジェストヴェンスキー、H.J.ロッチュ、G.クーンらの指揮者と共演、その真摯な音楽アプローチには定評がある。第22回国民文化祭とくしまでは皇太子殿下ご夫妻ご臨席の下で開会式に出演、NHKでも放送され好評を博す。

オペラでも『こども音楽館《魔笛》』でジョン・ミョンフンと、小澤征爾音楽塾「こもり」で小澤征爾と共演。「黒船」で新国立劇場にデビュー後、「修禅寺物語」「ばらの騎士」「さまよえるオランダ人」で同劇場に出演を重ねる。

東京・春・音楽祭、チロル音楽祭ERL（唄）、アルトアディジェ音楽祭（伊）など世界各地の音楽祭にも招かれ、2013年にはボルツァーノ＝トレント・ハイドンオーケストラと北イタリア5都市においてモーツァルト「レクイエム」で共演、成功を収めた。

日本声楽アカデミー、日本演奏連盟会員。

水野 洋助 (みずの ようすけ)

バリトン



熊本県出身。昭和音楽大学卒業、同大学院修了。これまでに佐久間伸一、折江忠道に師事。

文化庁人材育成事業オペラ「ジャンニ・スキッキ」タイトルロールはじめ「フィガロの結婚」「奥様女中」「秘密の結婚」「夢遊病の娘」「田舎の哲学者」「ピア・デ・トロメイ」「椿姫」「カルメン」「スザンナの秘密」「トスカ」等のオペラに出演。藤原歌劇団公演では「オリイ伯爵」教育係のカヴァーを務めるほか「椿姫」召使、ドビニー侯爵「ラ・ジョコンダ」水先案内人役にて出演している。

熊本築城400年記念「南風吹けば楠若葉」では加藤清正、熊本シティオペラ協会主催「シモン・ボッカネグラ」パオロ、「椿姫」ドゥフォール男爵を演じたほか、熊本音楽連盟「カルミナブラーナ」、フォーレ「レクイエム」においてソリストとして出演するなど熊本での音楽活動も積極的に行っている。

また「メサイア」「第九」「レクイエム」等のソリストも務めるほか子供向けコンサート、ミュージカル等に出演するなど幅広い演奏活動を行っている。

現在、藤原歌劇団準団員。



音楽指導顧問
岩津 整明

熊本大学教育学部音楽科卒業後、阿蘇農業高校、水俣高校、第一高校、甲佐高校を歴任、現在必由館高校非常勤講師。
熊本県合唱連盟顧問。熊本混声合唱団・合唱団Le Grazie指揮者。



岩代 和武

武蔵野音楽大学声楽科卒業後、熊本県立高校に教諭として35年間勤務。その後、熊本国府高等学校に非常勤講師として4年間勤務。現在、合唱団アルビレオ、JBクリスタル合唱団、灯コーラスグループ「歌人の会」指揮者。熊日学生音楽コンクール合唱部門審査員。平成12年にくまもと県民テレビが企画・制作したDVD「火の国旅情」の混声合唱アンソロジーを担当。声楽を新圭子、板橋勝、正田生次郎、藤沼昭彦、下野昇の各氏に師事。



河添 富士子

東京藝術大学を経て、同大学院オペラ科修士課程修了。台東区、取手市、杉並区、熊本のベートヴェン「第九」等のソリストを務める。2010年、熊本にてリサイタルを開催。2015年、オペラ「カルメン」でカルメン役を演じる。岩津整明、三浦久美子、曾我栄子、藤枝昭俊、木村宏子、ウバルト・ガルティエーの各氏に師事。現在、熊本大学、熊本学園大学、大分県立芸術文化短期大学、熊本市立必由館高校芸術コース非常勤講師。東京二期会、大分二期会会員。



中島 章利

北海道大学卒業。中学校、高校時代はサッカー部に所属。大学入学時に女子学生の甘い勧誘で合唱にはまり込む。合唱指揮を木内宏治氏、管弦楽指揮を栗田哲海氏に師事。声楽を中尾富子、石田久大、三浦國彦の各氏に師事。昭和61年札幌市新人音楽会（声楽）に出演。札幌で多数の合唱団を指導。帰郷し、現在はロシア作品を中心に歌う女声合唱団チャイカを主宰。男声合唱団KGC（熊本）指揮、コールかもめ（熊本）指揮。福岡合唱指揮者協会会員。



平和 孝嗣

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院修士課程修了。文化庁オペラ研修所入所（第一期生）。ウィーン国立音楽大学卒業（オーストリア政府給費留学）。これまで熊本や東京、ドイツ、ウィーン等々で22回のリサイタルを開催。また、多くのオペラやコンサートにも出演。他、熊本をはじめ、九州でのいろいろな音楽コンクールの審査員も務めている。熊本日独協会、熊本県文化協会、日本演奏連盟会員。熊本大学名誉教授。



南 迪子

国立音楽大学声楽科卒業。オペラやリサイタルを始めコンサートの出演多数。レパートリーは、クラシックのみならず、唱歌・童謡・抒情歌・ミュージカルなど多岐にわたる。声楽教師として後進の指導にあたり、優秀な生徒を排出している他、合唱指導者としても実績を残している。現在、熊本市立必由館高等学校・芸術コース声楽講師。合唱団サザンクロス「輝」「悠」指揮者。



川辺 里美

熊本大学教育学部音楽科卒業後、福島大学大学院教育学研究科音楽教育専修修了。Van Vertコンサート、NHK美術館コンサート等に出演。アンサンブルピアノのタベ、フランス音楽のタベなどを開催。大阪音楽国際音楽コンクール連弾部門入選。現在、福岡で音楽活動を行っている。



隈部 文

国立音楽大学教育音楽学科リトミック専攻卒業。熊本県同調会新人演奏会、熊本県新人演奏会などに出演。リトミック国際免許保持者。現在、平成音楽大学勤務、熊本YMCA学院講師、リトミック研究センター熊本支局顧問。また、幼稚園、保育園、高齢者施設でもリトミックを行っている。



古閑 恵美

国立音楽大学器楽科ピアノ専攻卒業。数多くの演奏会にピアニストとして出演する一方、様々な著名演奏家のリサイタルでピアニストを務める。合唱ピアニストとしても国内トップレベルの合唱団から数多く招かれ、コンクールや演奏会で高い評価を受けている。尚絅短期大学、中九州短期大学、熊本学園大学講師を歴任。現在、様々な演奏活動を行っている。



砂泊 宇希

九州女学院高等学校（現九州ルーテル学院）、京都市立芸術大学音楽学部音楽学科ピアノ専攻卒業。伊藤幸絵、吉川由三子、神西敦子、岡田敦子の各氏に師事。熊本市民合唱団ユージェント・コール、熊本シティオペラ協会、コール湖東、コールはなその各ピアニストを務める。熊本県文化懇話会会員。



林原 ゆり

国立音楽大学器楽学科ピアノ専攻卒業。熊本県新人演奏会、熊本県同調会新人演奏会出演。ソロリサイタル開催の他、ピアノデュオコンサート、ジョイントコンサート等に出演。また各種オーディションやコンサートの伴奏ピアニストとして合唱・器楽・声楽の分野で活動している。現在（株）古城ピアノ社 ピアノ講師。コーロ・フィオーレ、合唱団ひびき、合唱団Le Grazie、スコラ・カントーラム・熊本の伴奏ピアニスト。



星子 眞澄

国立音楽大学ピアノ専攻卒業。オーストリア・ウィーン私立ブライナーコンセルヴァトリウム2期修了。国立音楽大学卒業演奏会、熊本県新人演奏会、西日本新人演奏会に出演の他、3回のソロリサイタルを行う。現在、ルーテル学院大学兼任講師、熊本文化懇話会会員。

1. 「エグモント」序曲 ヘ短調 作品84
ベートーヴェン

2. 交響曲第9番 二短調 作品125 「合唱付き」
ベートーヴェン

- 第1楽章 Allegro ma non troppo e un poco maestoso
第2楽章 Molto vivace
第3楽章 Adagio molto e cantabile
第4楽章 FINALE

皆さん一緒に第九を歌いましょう

熊本県民第九の会は、県立劇場の柿落としの事業として「ベートーヴェンの第九」が企画され、オーケストラは熊響、合唱団は広く県民に呼びかけ結成され、熊本県民手作りの演奏会として開催されました。

この演奏会が大変好評で、関係者の皆様から熊本県民の第九として継続してほしいとのご要望から、実行委員会が組織され、プログラム末尾に記載のとおり、毎年国内外の著名な指揮者・ソリストを招いて開催しています。

一流の指揮者、ソリスト、約100名からなるオーケストラ、そして約300名の合唱団。この大編成のステージに立って同好の仲間と歌う感動・感激は体験した人しかわかりません。

聴くだけでも感動する「ベートーヴェンの第九」です。皆様方も、この第九の合唱に参加し、体験することで、感動を一層大きく深いものにしてみませんか。

県民第九の会の合唱団員募集期間は毎年6月上旬からはじまり、7月末日が締め切りとなっています。「合唱団員募集要項(申込書)」は6月上旬から県立劇場・崇城大学市民ホール・西野楽器店その他県内の主要文化施設に置きますのでご利用下さい。

練習期間は8月中旬に結団式を行い、9月から12月まで月3回程度のペースで、主として日曜・祭日の午後に合計13~14回程度の練習です。

来年は是非お申し込み頂きたく、ご案内申し上げます。
皆様方のご参加を心からお待ちしています。

熊本県民第九の会実行委員会
お問合せ 事務局 090-2851-1007

■ シラー《歓喜に寄す》

対訳=大宮 真琴

O Freunde, nicht diese Töne ! sondern
lasst uns angenehmere anstimmen, und
freudenvollere.

バリトン独唱

おお、友よ、この調べではなく、
さらに快い、さらに喜びに満ちた調べを
ともに歌おう!

Freude, schöner Götterfunken,
Tochter aus Elysium,
Wir betreten feuertrunken,
Himmlische, dein Heiligtum !
Deine Zauber binden wieder,
Was die Mode streng geteilt ;
Alle Menschen werden Brüder,
Wo dein sanfter Flügel weilt,

バリトン独唱・合唱

歓びよ、神々のうるわしい輝きよ!
楽園の娘らよ!
われらみな、感動に酔い、
天の-highの神殿に踏み入ろう!
この世に厳しく引き離された者らを、
神秘なる御身の力は、再び結び合わせる。
御身の優しい翼の憩うところ、
すべての者らは、同朋(はらから)となる。

Wem der grosse Wurf gelungen,
Eines Freundes Freund zu sein,
Wer ein holdes Weib errungen,
Mische seinen Jubel ein !
Ja, wer auch nur eine Seele
Sein nennt auf dem Erdenrund !
Und wer's nie gekonnt, der stehle
Weinend sich aus diesem Bund !

四重唱・合唱

大いなる天の賜物をうけた者らよ、
真空の友情をかち得た者らよ、
女の優しい愛を得た者らよ、
歓びの歌を、ともに歌え!
しかり、たとえ、ただ一人の魂でさえも
地上の友と呼べる者を持つことができるならば!
だが、それさえ持つことのできなかつた者は、
涙しつつ、足音をしのばせ、立ち去るがよい!

Freude trinken alle Wesen
An den Brüsten der Natur ;
Alle Guten, alle Bösen
Folgen ihrer Rosenspur.
Küsse gab sie uns und Reben,
Einen Freund, geprüft im Tod ;
Wollust ward dem Wurm gegeben,
Und der Cherub steht vor Gott.

四重唱・合唱

すべてこの世に在るものら、
自然の胸から歓びを飲み、
すべての善人も、すべての悪人も、
喜びの薔薇の小径を行く。
歓びは、われらに、口づけと葡萄酒と、
そして、死さえも奪い去ることのできぬ友とをあたえ、
虫けらにさえも楽しみがあたえられ、
天使ケルビムは、神の御前立つ。

Froh, wie seine Sonnen fliegen
Durch des Himmels prächt'gen Plan,
Laufet, Brüder, eure Bahn,
Freudig, wie ein Held zum Siegen.

テノール独唱・男声合唱

歓びよ、歓びよ、神の太陽たちが、
壮大な天の軌道をたのしく飛びかうように、
同朋(はらから)よ、おのれの道をすすめ、
歓びに満ちて、英雄が勝利の道をすすむがごとくに。

Seid umschlungen, Millionen !
Diesen Kuss der ganzen Welt !
Brüder ! über'm Sternenzelt
Muss ein lieber Vater wohnen.
Ihr stürzt nieder, Millionen ?
Ahnest du den Schöpfer, Welt ?
Such' ihn überm Sternenzelt !
Über Sternen muss er wohnen.

合唱

たがいに手をとり合おう、億万の人々よ!
この口づけを、全世界にあたえよう!
同朋(はらから)よ、星のかなたには、
愛する一人の御父が住み給うのだ。
ひれ伏して祈るか?億万の人々よ。
創り主を心に感ずるか?世界の民よ。
星空のかなたに、王をさがし求めよう!
星たちのうえに、主は住み給うのだ!

1. 「エグモント」序曲 ヘ短調 作品84

ベートーヴェン

ナポレオンの皇帝即位に失望したベートーヴェン (Ludwig van Beethoven 1770-1827) にとって、ゲーテの戯曲「エグモント」に登場する英雄エグモントは大いなる魅力であった。宮廷劇場支配人ハールトルの依頼によってこの戯曲の付帯音楽である「エグモントへの音楽」が作曲された1809年から1810年にかけては、皇帝協奏曲や告別ソナタなどの名作が生み出されている。ベートーヴェンにとってこの時期はロマン主義的な傾向が深まり、それはこの「エグモント」にもよく表われている。

ゲーテが、この史実をもとにして書いた悲劇は、16世紀スペインの圧政下にあったオランダが背景となっており、物語の大筋は次のようなものである。フランドルの領主エグモント伯爵は、スペインの圧政から祖国を救おうと独立運動の指導者として登場する。しかし、かれは捕えられ死刑を宣告される。愛人グレートヒェンはエグモントを救おうとするが果たせず毒を仰いで自殺する。断頭台に向かうエグモントの前にグレートヒェンの幻影が現われかれを祝福する、というものである。ベートーヴェンはこの戯曲のために「序曲」や「幕間の音楽」「勝利の交響曲」など10曲の音楽を作曲した。ベートーヴェンは、「私はもうただゲーテに対する愛からのみでエグモントを作曲した」と、或る手紙に記すほどゲーテを深く敬愛していた。この歴史上の巨匠の会見は1812年に一度実現した。しかし、ゲーテはベートーヴェンの芸術に異質のものとして、ついに受け入れるまでには至らなかった。

「エグモント」序曲は、導入部とソナタ形式による主部からなる。まず、序奏部では弦楽器群が重々しく、しかも決然とした動機を呈示する。これを木管がやさしく受ける。これが繰り返されたあと、ppで孤線を描くような新しい動機が呈示される。主部に入り、この動機の中からチェロにより主要主題が姿を現わす。これはいかにも雄大で悲壮なエグモントの性格がにじみ出ているようである。副主題はffの弦楽器で開始され、木管がやさしく受けるもので、序奏の部分から生まれたものである。展開部は木管楽器群が主として主要主題を断片的に変形させるもので、あまり長いものではない。規則どおりに再現部が現われたあと、終結部は、それまでの気分はがらりと変わり、第1ヴァイオリンが誘導動機をppで呈示すると、これが次第にふくれあがり、新しい勝利の主題ともいべき勇壮な主題が全合奏の主題がffで出現する。そして壮大なクライマックスへと導かれる。

2. 交響曲第9番二短調作品125「合唱付き」

ベートーヴェン

ベートーヴェンは、一つ一つが内容と性格を異にする八つの交響曲を書き終えたのち、生涯の最後に九番目の交響曲に書手した。

1793年、ポンのフィッツェニヒは、シラー夫人の手紙で「彼は歓喜をも、しかも各節残らず作曲するでしょう…」と告げていることにより、ベートーヴェンは生地ボンにいたときから、すでにシラーの詩「歓喜に寄す」に作曲したいと思っていたことがわかる。

1822年に、ロンドンのフィルハーモニー協会は、ベートーヴェンに新しい交響曲の作曲を依頼してきた。このことで、今までベートーヴェンの頭の中に、うかんだり、消えたりしていた合唱付きの交響曲の構想が、いっきよに実現することになった。そして1823年から24年にかけて、この巨大な交響曲が完成した。シラーの「歓喜に寄す」に作曲する意図をいだいて、完成するまでに、じつに30数年にわたっていることになる。

この曲は、ベートーヴェンの音楽における技法と精神の最も円熟した時代の作品であって、その内容が雄大な精神と、大胆にして洗練され、全く独創に富んだもので、いく多の目新しい技法がそこに示され、その楽想は当時の常識を全く超えたものであった。四人の独唱者や大規模な合唱団を用いたり、終曲の初めにおいて、前の三つの楽章を回想したりなどはその一例である。

初演は1824年5月7日夜、ウィーンのケルトナートア劇場で行われた。

ベートーヴェンの聴力がかなり衰えていたことは、この曲の初演の際に、指揮者を二人おいたことでもわかる。ベートーヴェンは正指揮者のウラウフの隣りにあって、実際の演奏とは、くい違ったテンポや表情で空しく空間に弧を描くのみであったという。

「第九」の演奏は練習不足ではあったが、聴衆には偉大な感銘を与え、各楽章の終わりには万雷の如き拍手が起った。特に終曲が終ったとき、成功は決定的となった。満堂の聴衆は感激して総立ちとなり喝采を浴びせた。しかし、耳の聞こえないベートーヴェンは聴衆を背にしてボンヤリしていた。見かねたアルトの独唱者ウンガーがかれの袖をひいて聴衆の方を向けたので、かれは初めてこの曲が非常な感銘を与えたことを知り、礼をしたという。聴衆はこの劇的な悲愴な光景に感激し、さらに拍手を続けて、作曲者を五度も答礼のためにステージに出させた。答礼は三回というのが皇帝に対する礼儀なので、警官があわてて聴衆を制したという。

〔第一楽章〕Allegro ma non troppo e un poco maestoso

「第九」の規模の雄大さと、劇的な性格は、はやくもこの楽章でも示されている。導入は、天地の混沌を想わせる茫漠とした空5度(第三音がない)の響きで始まる。やがてこの響きのなかから鋭いリズム・モチーフが生起する。このモチーフが圧縮され、第1主題が澎湃(ほうはい)として沸き起こる巨大な魂のごとく蕭然(しょうぜん)たる姿をあらわす。ソナタ形式は、いまだかつて、このような主題を経験したことがなかったのである。

第2主題は第1主題と異なって、楽しい性格のものである。これにつづく部分も、大体においてこの気持をもち、ときどき第1主題の部分をまじえながら展開部へとつづく。そしてその劇的壮大さは再現部における第1主題へ壮烈な導入において、クライマックスに達する。

ワーグナーによると「我々と地上の幸福との間をさえぎる敵意ある暴力の圧迫に対して、喜びをかち得ようと努める魂の戦い、極めて壮大な意識で把握された戦いが、この第一楽章の基礎をなしているように思える」である。

〔第二楽章〕Molto vivace

およそベートーヴェンの書いたスケルツォのなかで、最も大規模なものである。鋭い付点リズムを含む、むしろ単純なスケルツォ楽想が、およそ考える限りのすべての展開を行う。トリオの主題はあきらかに第一楽章のエピソードから受けつがれたものであり、終楽章の「歓びの調べ」への橋わたしの役を果たすことにもなるのである。

ワーグナーは「激しい喜びが、この第二楽章をはじめのリズムで直ちに我々をとらえる。新しい世界の中に我々は入り、そこで陶酔や麻酔へと駆りたてられるからである…」と言っている。

〔第三楽章〕Adagio molto e cantabile

賛歌ふうの主題旋律と希望と浄化を象徴するような

明るく美しい第2主題は、この両主題にもとづく自由な変奏形式をとっており、叙情的な旋律、色彩的な和声は、宗教的な敬虔さをもって瞑想的に展開され、情熱も闘争もない平和な幸福感が描き出される。

この交響曲の中で一つの頂点であり、ワーグナーは「なんと清らかに天国のようななだめ方でそれ等の音は反抗と絶望におののいた魂のげいしい促しを、やわらかい憂鬱(ゆううつ)な感覚へと溶けさせていくことか、思い出がつとに享受したきわめて純粋な幸福への思い出が目ざめるかのように思われる…」と言っている。

〔第四楽章〕FINALE

第1呈示部=まず管打楽器によるあわただしい楽想が奏される。これに対し低弦がレシタティブでこたえる。それから、前の三つの楽章がそれぞれ回想され、低弦のレシタティブによって否定されていく。そしてついに、一つの歓ばしい旋律が現れる。この主題は初めに低弦によって歌われ、くり返しながら全合奏に至る。

第2呈示部=この楽章の初めの、あわただしい楽想がもどってくる。やがてバリトン独唱が、力強く歌いはじめめる。ついで合唱がこれにつづく、やがて他の独唱も加わり、ひとつのクライマックスをつくる。曲想一転して行進曲となり、テノール独唱が歌いはじめめる。そして男声合唱が、力強く歌い加わる。

再現部=やがて曲はふたたび「歓喜の調べ」がもどり、合唱が重々しく新しい主題をうたう。やがてこの新しい主題と「歓喜の調べ」とが組み合わせられて、壮麗な二重フーガがくりひろげられ、全曲中の一つのクライマックスを形づくる。

コーダ=曲想が一変する。主題旋律の新しい変奏に入り、四人の独唱者と合唱が変化のかぎりをつくして、交互に歌いすすめる。

圧倒的な合唱コーダとなり、合唱の最後は、マエストロとなるが、管弦楽だけが残り、圧倒的な終結を一気に終る。

「熊本県民第九の会」実行委員会

顧問	下田 宰 城	委員(事務局)	坂 口 幸 男
	本 山 洋	委員	岩 代 和 武
	林 原 隆 治		田 北 洋 康
	草 刈 秀 士		梅 田 雄 介
			黒 葛 原 潔
委員長	神 田 一 伸		川 田 幸 子
			藤 本 幸 弘
			高 倉 正 純
			山 崎 崇 伸

「熊本県民第九の会」合唱団

インスペクター 中島章利 CHORUS

Soprano
(ソプラノ)

相川久仁子
青谷正子
阿部奈津子
池上裕子
池田眞惟子
井芹順子
伊藤春美
井上史織
入部一代子
岩永宣貴
上村和代
大石洋美
大大塚由美
大緒方真里子
小椋原紀久子
川田幸子
川西由希子
川部恵子
菊池淳子
清永ヤコビ
久後田雅穂
倉田美由美
蔵元淳子
黒島淑逸子
小齊藤淑和子
沢田章子
瀬口由美子
杉本扶美
園岡久美子
高田碩子
高森さつき
竹原

田島幾子
中尾浩子
永田桂子
中村久代子
服部敬子
濱田洋子
早田章子
春田香子
東由紀子
日吉由枝子
廣田美美子
福田睦子
藤田悦子
前増永明
松川千晶
松村紀子
松門寺阿古
光延美知恵
宮本奈都美
宮本はつみ
山隈由紀
山山腰万里子
山崎はるみ
山崎美穂子
横田味詠子
吉野信子
吉野光子

Alto
(アルト)

明石瑠璃子
荒木斐子
荒木のり子
荒木雅子
石原昌子
伊藤公子
伊藤律子
今村かをる
岩坂美紀子
内田真由美
内田禮子
浦山祐華子
江崎恭庸子
大久塚喜久子
大緒方満喜子
沖米田恵子
小沢恭子
小田小百合子
小野順子
小山悦子
亀谷美恵子
神之田仁美
加茂千枝子
河内通子
川崎節子
川野田津子
菊池吟子
北原雅子
北山詩織
木原美智代
草刈登喜代
倉岡睦
栗秋千恵子
古賀紀久子
西郷子
神原美智子

佐藤加代子
佐藤美由紀
志垣美貴子
品川あかつき
杉本弘子
高濱左衛子
高比良栄子
田北真理子
竹下敬子
竹田綾子
田上冷子
田村直子
塚本和子
辻幸子
鶴園葉子
中島マサ子
中野俊子
中村久美子
中山弘子
名島和美子
西戸美奈子
西村有加子
西野村ちひろ
橋口泰子
早川邦子
廣田公美子
深田水穂子
福藤本邦子
藤原美智子
藤原道子
藤上みどり
古谷道子
本田美留
益松田由美子

松村恵美子
松本節子
松本美知代
丸岡升子
峯田道子
三宅恵美子
宮原千草子
宮原徳子
宮辺浩子
宮本裕子
村上早智子
村上博子
村田智美子
森敬子
森幸子
安田美喜子
八田セツ子
柳田恵子
山口千春
山下富江子
山田純子
山田道子
山横吉島幸子
吉田沙也加
吉津茂美子
吉米光子
若槻入三子

「熊本県民第九の会」合唱団

Tenor
(テノール)

青木敬
赤川吉英
荒木綾史
岩崎正博
岩下真也
上村哲也
梅田正男
岡本登二
園城陽明
菊池範一
清野公二
坂口幸男
潮崎真一
高倉正純

田尻重信
塚本哲人
柘植治浩
中村諄和
名島弘洋
西垣明弘
西口正太郎
橋口賢一
日吉勇弼
平林武樹
深泉水博
福藤勝仁
古嶋浩三
増木英秀
松尾眞

三木徳兼
村上忠俊
免出雅俊
森三千雄

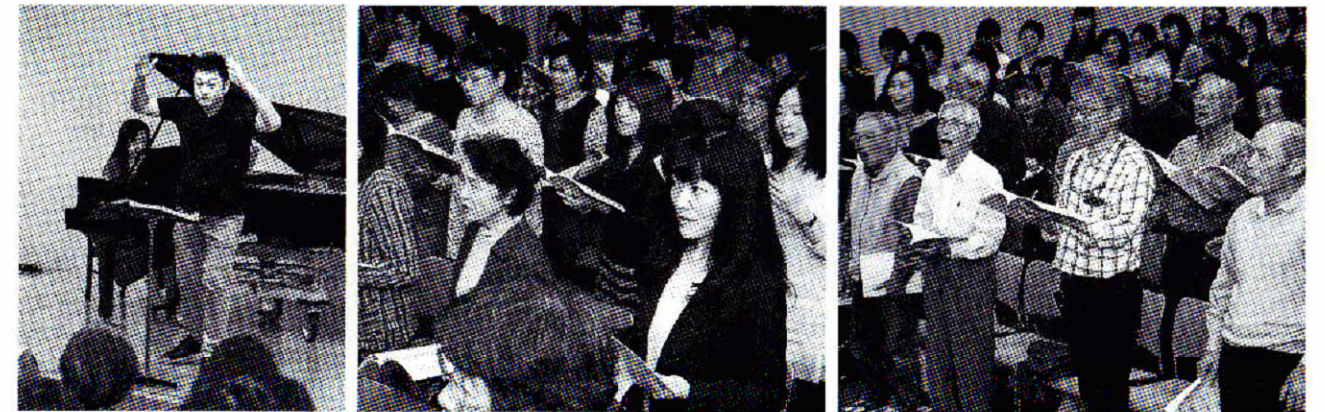
Bass
(バス)

赤池庄一
安藤敬久
石原陽平
岩村龍之介
内山裕次郎
衛大津敬一
大河野義孝
神田一伸
菊池忠孝

小森田浩
近藤隆史
高木幹史
高塚敬介
中原司人
中村義彦
南里滋
花田淳悟
春福嶋義矢
福池淳一郎
福池裕彰
藤井輝二
星乃洋二
前川賢夫
松下承生
松村雄二郎

三浦秀登士
三浦文晴
宮本紀一郎
許田重治
山田幸宣
米村甲矢夫
和田建一郎

練習風景



熊本交響楽団

インスペクター 金子 岳 史 KUMAMOTO SYMPHONY ORCHESTRA

<コンサートマスター> 鶴 和美

<1st バイオリン>

鬼塚 雅子
佐藤 弘美
佐藤 ゆい子
迫田 美和
高木 範貢
田中 真由美
谷川 小み子
黒葛原 契子
鶴西 村勇也
原 雅也
藤本 佳澄

<ヴィオラ>

安部 和歌葉
尾谷 友紀
春日 芳文子
桂敦 俊介子
釘宮 啓太
甲井 龍太
駒井 龍太
黒葛原 一良
土山 良剛
遠田 崇伸
水崎 崇伸

<コントラバス>

石津 雅彦
古泉 俊誠
後藤 上博子
田内 尚志
竹坂 田英津子
岡田 尚子

<フルート>

高濱 龍一郎
塚本 菜月
寺尾 みのり

<ファゴット>

小田 穂積
川邊 由香梨
黒田 孔太郎
高濱 真由美
運沼 昇

<ホルン>

上野 竜志
齋藤 恵之
猿渡 伸之
野村 梢
松元 俊賢

<トランペット>

上村 佳朗
永廣 正治

<トロンボーン>

梅田 雄介
崎奈 那
安永 沙織

<打楽器>

木下 知里
富永 吉男
福島 勇好

<オーボエ>

片岡 久哉
武内 桃子
辰野 裕昭
徳永 奈保

<クラリネット>

黒木 健次
高野 栄次
徳田 香南
原 敏郎

<チェロ>

内賀嶋 直美
金子 岳史
田畑 範昭
槌田 博文
長尾 和治
長坂 輝喜
野島 秀司
佛淵 かつよ
佛淵 信夫
武藤 裕治

<2nd バイオリン>

岩橋 和江
岡純 子
小田 正雄
倉重 あすさ
坂本 雅之
佐藤 葵奈
去川 聖奈
新川 友香子
中尾 麻美子
東戸 眞知子
次 奏瑛



熊本県民第九の会のあゆみ

第1回 昭和57年12月28日(火) 越天楽(雅楽)(近衛秀麿編曲)



指揮/山田 一雄



独唱/新 圭子



木村 宏子



伊豆野 修



高橋 修一

第2回 昭和58年12月11日(日) 楽劇「ニュルンベルグのマイスタージンガー」前奏曲(ワーグナー作曲)



指揮/大友 直人



独唱/高見久美子



岡 ますみ



大野 光彦



柴田 啓介

第3回 昭和59年12月27日(木) 弦楽のためのアダージョ 作品11(バーバー作曲)



指揮/山岡 重信



独唱/中沢 桂



木村 宏子



板橋 勝



池田 直樹

第4回 昭和60年12月25日(木) 「レオノーレ」序曲第3番 八長調 作品72a(ベートーヴェン作曲)



指揮/フランツェックワナル



独唱/三縄みどり



妻鳥 純子



伊達 英二



中村 邦男

第5回 昭和61年12月27日(火) トッカータとフーガ 二短調(J.S.バッハ作曲/ストコフスキー編曲)



指揮/荒谷 俊治



独唱/津下美奈子



木村 宏子



鈴木 寛一



芳野 康夫

第6回 昭和62年12月26日(土) 「エグモント」序曲 へ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/安永武一郎



独唱/中沢 桂



木村 宏子



近藤 伸政



栗林 義信

第7回 昭和63年12月25日(日) 序曲「コリオラン」ハ短調 作品62(ベートーヴェン作曲)



指揮/安永武一郎 独唱/三縄みどり 木村 宏子 鈴木 寛一 平野 忠彦

第8回 平成元年12月24日(日) 「プロメテウスの創造物」序曲 作品43(ベートーヴェン作曲)



指揮/小松 一彦 独唱/秋山恵美子 木村 宏子 成田 勝美 高橋 啓三

第9回 平成2年12月23日(日) 「ロザムンデ」序曲 作品26(シューベルト作曲)



指揮/初山 和明 独唱/山田 綾子 木村 宏子 大野 徹也 福島 明也

第10回 平成3年12月23日(月) 「エグモント」序曲 ハ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/安永武一郎 独唱/西森 由美 木村 宏子 田中 誠 宮原 昭吾

第11回 平成5年12月23日(木) 楽劇「ニュルンベルグのマイスタージンガー」前奏曲(ワーグナー作曲)



指揮/荒谷 俊治 独唱/河添富士子 春日 成子 小林 彰英 栗林 義信

第12回 平成6年12月25日(日) 「エグモント」序曲 ハ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/金 洪才 独唱/岩永 圭子 妻鳥 純子 齋場 知昭 勝部 太

第13回 平成7年12月24日(日) モテット「アヴェ・ヴェルム・コルプス」k.618(モーツァルト作曲)



指揮/金 洪才 独唱/西森 由美 妻鳥 純子 大島 博 大島 幾雄

第14回 平成8年12月23日(月) カンタータ第147番よりコラール「主よ、人の望みの喜びよ」BWV147(J.S.バッハ作曲)



指揮/本名 徹二 独唱/河添富士子 妻鳥 純子 大間知 寛 瀬戸口 浩

第15回 平成9年12月21日(日) 序曲「コリオラン」ハ短調 作品62(ベートーヴェン作曲)



指揮/金 洪才 独唱/志岐由理子 妻鳥 純子 牧川 修一 小川 裕二

第16回 平成10年12月20日(日) 「レオノーレ」序曲第3番 ハ長調 作品72a(ベートーヴェン作曲)



指揮/井崎 正浩 独唱/佐々木典子 岩森 美里 井ノ上 了史 瀬戸口 浩

第17回 平成11年12月19日(日) 「エグモント」序曲 ハ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/レオクレーマー 独唱/水野 貴子 青山智英子 持木 弘 松本 進

第18回 平成12年12月23日(土) 歌劇「フィデリオ」序曲 作品72b(ベートーヴェン作曲)



指揮/金 洪才 独唱/河添富士子 妻鳥 純子 大間知 寛 大島 幾雄

第19回 平成13年12月23日(日) 歌劇「魔弾の射手」序曲(ウェーバー作曲)



指揮/田代 詞生 独唱/佐々木典子 青山智英子 井ノ上了史 松本 進

第20回 平成14年12月22日(日)



指揮/松尾 葉子 独唱/三縄みどり 杉野 麻美 米澤 傑 瀬戸口 浩

第21回 平成15年12月21日(日) 喜歌劇「こうもり」序曲(J.シュトラウス作曲)



指揮/井崎 正浩 独唱/佐々木典子 大林 智子 米澤 傑 松本 進

第22回 平成16年12月26日(日) 「エグモント」序曲 へ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/大山平一郎 独唱/安藤赴美子 一色 礼子 五十嵐 修 木村 俊光

第23回 平成17年12月25日(日) 序曲「コリオラン」 八短調 作品62(ベートーヴェン作曲)



指揮/田代 詞生 独唱/三縄みどり 妻鳥 純子 大間知 覚 佐久間 伸一

第24回 平成18年12月24日(日) 歌劇「フィデリオ」序曲 作品72b(ベートーヴェン作曲)



指揮/山田 和樹 独唱/西森 由美 岩森 美里 井ノ上了史 小川 裕二

第25回 平成19年12月23日(日) 混声合唱のための「うた」から(武満徹作曲)



指揮/山田 和樹 独唱/佐々木典子 加納 里美 井ノ上了史 佐野 正一

第26回 平成20年12月21日(日) 「エグモント」序曲 へ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/澤 和樹 独唱/松本美和子 山下 牧子 米澤 傑 松岡 聡

第27回 平成21年12月20日(日) 序曲「献堂式」 八長調 作品124(ベートーヴェン作曲)



指揮/現田 茂夫 独唱/三縄みどり 加納 里美 樋口 達哉 堀内 康雄

第28回 平成22年12月26日(日) 「エグモント」序曲 へ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/角田 鋼亮 独唱/藤本いくよ 山下 牧子 大澤 一彰 小川 裕二

第29回 平成23年12月25日(日) 交響詩「フィンランディア」作品26(シベリウス作曲)



指揮/新田 ユリ 独唱/本松 三和 山下 牧子 米澤 傑 松岡 聡

第30回 平成25年12月22日(日) 楽劇「ニュルンベルグのマイスタージンガー」第1幕への前奏曲(ワーグナー作曲)



指揮/井崎 正浩 独唱/佐々木典子 大林 智子 大澤 一彰 佐久間伸一

第31回 平成26年12月7日(日) 序曲「コリオラン」八短調 作品62 (ベートーヴェン作曲)



指揮/新田 ユリ



独唱/河添富士子



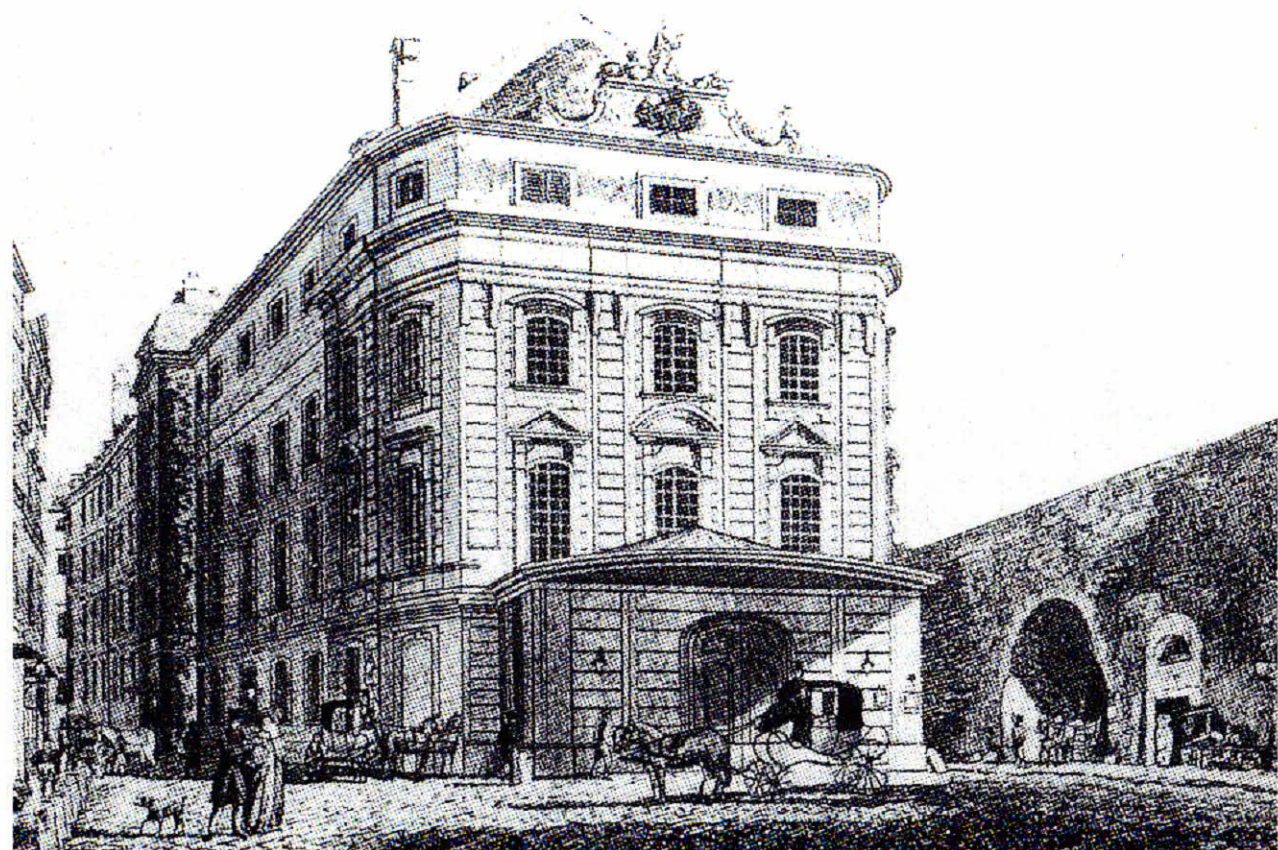
愛甲 久美



樋口 達哉



平和 孝嗣



ベートーヴェンの第九交響曲の初演が行われたウィーンのケルトナートア劇場

歓喜の歌

f

Freu - de, schö ner Göt - ter fun - ken, Toch - ter aus E
 フロイ デ シューエーネル ゲッ テル フン ケン トッホ テル アウス エ

sf

ly si um, Wir be - tre - ten feu - er - trun - ken,
 リュー ズウイ ウム ヴィル ベエ トリエーテン フォイ エル トウルンケン

13 *sf*

Himm - li sche, dein Hei lig - tum! Dei - ne Zau - ber
 ヒインムリイ シェダイン ハア イリイヒトウーム ダアイ ネ ツウアウベル

19 *ff*

bin den wie - der, was die Mo - de streng ge - teilt; al -
 ビンデエン ヴィーデル ヴァスディ *sf* モオー デ シュツレンクゲ タイルトアツ

25

le Men schen wer den Brü - der, wo dein sanf - ter
 レエ メンシェン ヴェルデン ブリウ デル ヴォーダイン ザンフテル

31

Flü - gel weit; Dei - ne Zau - ber bin - den wie der,
 フウリウー ゲルヴァイルト ダアイ ネ ツウアウベル ビンデエン ヴィイデル

37 *ff*

was die Mo - de streng ge teilt; al le Men - schen
 ヴァスディ *sf* モオウ デ シュツレンクゲ タイルトアツ レエ メンシェン

43

wer - den Brü - der, wo dein sanf - ter Flü - gel weit.
 ヴェルデン ブリウー デル ヴォーダイン ザンフテル フウリウー ゲルヴァイルト

歓喜の歌 高らかに

県立劇場で
第九演奏会



年末恒例のベートーベン「第九」演奏会が6日、熊本市中央区の県立劇場で開かれ、約250人による「歓喜の歌」の合唱が響き渡った。県民第九の会、県文化協会が主催し32回目。

国内外で活躍する小森康弘さんが指揮し、熊本交響楽団が演奏。歌は、在熊のオペラ歌手、福嶋由記さん（ソプラノ）らソリスト4人と、公募で集まった高校生から90歳の合唱団が務めた。

ベートーベンの「エグモント」序曲に続き、「交響曲第9番」を演奏。クライマックスの第4楽章では、シラーの詩「歓喜に寄す」の一節をドイツ語で伸びやかに歌い上げた。

また、アンコールでは観客も一緒になって合唱した。

アンコールで、観客とともに「歓喜の歌」の合唱を響かせたベートーベン「第九」演奏会 6日夜、熊本市の県立劇場（大倉尚隆）